

令和6年度第1回図書館協議会（議事録要旨）

日時 令和6年7月19日（金）午後2時～

場所 豊明市立図書館会議室

出席 委員（9名） 土居、柴田、橋本、原田、尾崎、野々山、黒田、
杉原、鈴木
教育部長、事務局（3名）

議題

（1）令和5年度事業報告について

資料1「令和5年度実績報告書」に基づき説明。

（2）令和6年度事業計画について

資料2「令和6年度図書館事業計画」に基づき説明。

（3）「豊明市子ども読書活動推進計画」について

資料3「豊明市子ども読書活動推進計画」骨子（案）に基づき説明。

（4）その他

・第3弾！南部公民館図書室のクラウドファンディングについて

質疑応答等

（1）令和5年度事業報告について 資料1

委員長：図書館は地域文化の情報拠点として、市民の誰からも愛され親しまれる施設であってほしいとの願いから、市民の多様なニーズに応えられるように魅力的な図書館を目指していただきたいと思います。

委員：南部公民館がすごく明るくて良い環境になり、窓に向かって勉強できるカウンター席もでき、入館者数も増えて良かったと思う。

（2）令和6年度事業計画について 資料2

委員長：従来のものも大事にしつつ、目先の変った興味関心を持てることを発信しているので、これをもっと上手にPRできると良いと思う。行事のチラシを階段のところで見つけた。入口付近にイベント等の掲示があるが、他の周知手段として市の広報、他の場所での掲示等何か他の方法があるのか。

事務局：早い時期にPRすると忘れられてしまい、直近にするともう予定が入ってしまうということがあるため段階的にしている。広報は月始めの

ため、それ以外に例えばホームページやX（旧 Twitter）で流すとか、他には図書館内にポスター掲示等、時期をずらしていろいろな方法でPRしている。

委員長：せっかく良い催しをしても目に触れなかったり、後から知って残念がる市民がきつというと思う。努力を続けていけば周知されていくと思うので、重ね重ねお願いする。

どうしても小学高学年になると、本離れというか読書離れが見られ、なかなか本が読めないと聞くので、ぜひ上手に本好きな子どものまま推移できるような体系作りを考えられたらと思う。

委員：図書館のイメージがどうしても静かに本を読む、ちょっとでも音を立てると注意される感じ。それが小学高学年から高校生は、友人と本について話したいと思うので、やっぱり話しづらい空間だからかと思う。視聴覚室の予定は土日が多く、平日は空いてる。そこを利用して平日に暑さ避難の場所にすれば、中学生位ならバスが無くても自転車で気軽に来てくれると思う。視聴覚室は少しくらいしゃべっても、他に迷惑をかけずにすむと思うので、場所の提供、涼しくて少しゆるい環境で本が読めるよってならないかなと思う。

委員長：家に1人でエアコンをかけるのは少し…という時に、上手にそういう子ども達の居場所に。ここで本も読めるし友達と意見交換できる、いろんな意見や見方があることも経験できる大事な場になれば。

委員：どうしたらできるかと考えた時に、やはりその部屋に大人が必要。もし実際にやるなら、パート等で夏休み限定、期間を区切って子ども達が来やすい時間帯でやる方法はあるかと思う。

委員：小学生に足がないのが一番大きいと思う。大人は車に乗れば涼しいが、小学生は歩いたり、自転車で来る時は途中が大分暑く、登下校中ですら熱中症暑さ指数 31℃を超える状況が続いており、小学生だけと呼ぶのは少し難しい気がする。ただ学校としては、夏休み期間中の平日は子ども達の居場所が無い状況が発生しているので、居場所ができて良いと思う。あとは、夏休みの平日に子どもが喜ぶイベントをやりと、親が連れて来てくれるのかなっていう気はする。

委員：読み聞かせを視聴覚室でやっているが、奥の方なのでなかなか来てもらえない。ベビーカー等もあるのでエレベーターを使えば良いということだったが、最初はロビーの「おはなし会」の看板にある、エレベーターの案内が少し小さくて目立たなかった。徐々に案内が大きく

「エレベーターこちらです」みたいな感じで、誰が来てもエレベーターに乗って良いと分かる感じで書いてあり、参加する親子が多くなったように感じて、本当にありがたい。この場を借りてお礼が言いたくて。

委員長：催事案内板の下の方にあった。確かに見やすく、子ども連れのお母さん達の視線は下の方なので、良い所に掲示してもらったと思う。

委員：今は割と使いやすく2階が利用しやすくなって、図書館に行きやすくなったと感じる。これは子どもだけではなく、やはり障害をお持ちの方達や足が不自由な方達も、より図書館を利用できるようになるので、すごくありがたい。他に、令和5年度実績報告書に視覚障害者用の絵本が図書館にあると載っているが、どこにあるのか、別な場所で閲覧するのか。

事務局：子どもの絵本は児童室のバリアフリーコーナーに。大人用点字本は一般室のAVコーナーの奥に拡大読書器があり、その横に置いている。

委員：図書館に入るだけでは分かりづらく、もう少し明記されているともっといろんな方が利用できると思う。

事務局：拡大読書器もあるので、沢山の方に使ってもらいたいと思う。

委員：あることが分かれば利用される方はいると思う。もう少しPRを。

（３）「豊明市子ども読書活動推進計画」について 資料３

委員長：冊子が平成19年2月発行だが、この中身を修正していくという方向でよいのか、あと完成はいつ頃の予定か。

事務局：まったく新しいものを作るのではなく、改訂版という形になる。実際はずっと読み聞かせも、小中学校への働きかけも継続して行っている。国や県も子ども読書に力を入れて改訂している。新しい文言も織り交ぜた形で計画を作成する。完成は令和8年3月を予定。

委員：策定する時に委員として携わった立場で話をすると、今までやってこなかったわけではなく、職員が非常に少ない中で継続して、今回の令和6年度の計画にもあるように、ブックスタートからシルバーエイジまで、まさにこれが、子ども読書活動推進計画の本当に目指すところだとわかる。子どもの環境や学校現場が大きく変わっており、できれば今現場で学校図書館の読書活動に携わる方に入ってもらいたいと思う。忙しい中で学校図書館をやっている方たちに参加してもらえるかどうかは、ちょっと難しいかもしれない。県の子ども読書活動推進計

画の中を見ると文言もずいぶん変わっており、発達段階に応じてという言葉を使っているのも、小さい子供からティーンズ達の関わる方たちの意見が聞けたらと思う。

委員：学校現場は15年前と随分変わっており、15年前と同じ質問された時、本や読書という限定された場合、数字的には大分落ちると思う。読んでいる時間は前と比べれば随分減っている。今の現状を捉えるならばよいと思う。過去の資料と比較して数値が下がっているというのはナンセンス。これは15年間積み上げてきたものを否定することになるので、安易に比較することはやめたほうがいいと思う。これまで積み上げてきて、時代に合わせて適用してきているので。あと安易に調査というのは止めてほしい。それがどう活かされるのか明確になってない調査はやめて欲しいという意見は残してほしい。

委員：子育ては時代ややり方も変わってきているが、絵本などの紙の良さはデジタル時代ではあるが、この時代にあった図書館や絵本というところで、この「読み聞かせの街とよあけ」を目指して進んでいくと良いと思う。図書館が子育ての居場所づくりの一環も担っている。